



御陵小祈申はし給ひし重ねく参議後四位上和氣真  
綱朝臣を遣はし奉らり宣命小頃者所雨ふ例貢  
る如崇あまを奉らりトへ求む山陵小遣奉りたる例貢  
の物陶急き崇見ゆ香椎廟も同く崇を為給るを申せ  
る驚き尋檢る所司申はし去年より必供致はる有らむ  
の使を暫く陵戸人小附遺奉り然らむ謝申さむと云同  
らと疑ふや申はし今恐る將來ハ然らむ謝申さむと云同  
十二日和氣仲世朝臣ハ幡大神と香椎廟小幣を奉る  
とあり是も香椎廟ハ大后小坐候や下論候と左券を  
呈同九年十二月小滋野貞主朝臣小神宮弓劔を盾列池  
上山陵小奉呈給ひ同十年三月十八日あめ山陵鳴きと二  
度其聲雷の如く赤氣西を指し飛去き申時  
ふまも鳴出く赤氣西を指し飛去き申時  
日参議正躬王を遣はし視せ給ふ小榎木を  
多く伐取らりありしを陵守の長百濟春継を勘當給ひぬ  
と四月廿一日の下小参議從四位上藤原朝臣助掃部頭  
從五位下坂上大宿禰正野等を遣はし三月十八日の奇異小因り國録  
小謝申給ふありしを去三月十八日の奇異小因り國録  
を搜檢し給るふ二の櫛列山陵ありし北ハ神功皇后

の陵倭名大足姬命皇后小南ハ成務天皇の陵倭名種  
足彦天皇小まの世ハ相傳へ南陵と神功皇后の  
陵中せ故偏小の口傳小因り皇后の御崇ありと小  
空く成務天皇山陵小謝奉り先づ年皇后御崇小録り  
作りり弓劔の類も誤り成務天皇御陵小奉りしを今  
日改り皇后の御陵小奉らるとありし二陵の事を記傳  
山陵志と種々論ひし口傳の方や却り正しとむ  
とあれや近比世小現れ天平年中の班田圖小北を神功  
皇后の敷地南を成務天皇敷地と録せし尚圖録を正し  
りり同五月條小櫛列山陵丁ハ關小隨ひ京戸并ふ  
浪人を差はしを聴け尚國小差課人なき小依り也  
や見え清和天皇貞觀八年十七年小山陵の木を民  
人の伐取りしを御使を遣はし謝し給ひし陽成天  
皇元慶元年の夏より秋より大炎早せしを  
ト合給ふ小義倉を守り者倉下小鹿を解く喫ひ百姓  
等南北二陵の樹木三百三十二株を伐りしと頭候故小  
守倉の人小諸陵官人等を法小處し給ひ同七月十日  
御使し木を伐り鹿を解し崇を謝申し給ふ并御紀  
小見え扶桑畧紀小後三條天皇延久二年正月十三日成務  
天皇神功皇后山陵北域内狩獵并伐損樹木之輩會赦否由



年小若指山香稚宮と造了崇奉了。正直の若と。稍乎き。指の  
枝小若住べし御誓ありし故也。其の指ハ皆尖や云  
や。其社頭のハ。稍乎小若ひた。其勅使参著し。枝を折る  
鳳闕小奉ると云。其或書ハ。交め。筑紫古風土記。文  
ふく諸神記。諸社根元記。引たり。今校合し。あけたり。  
拾芥抄。保四年。公卿宜を引く。或ハ仲哀天皇や。皇后や  
も申て。無一定と有。本文を初め。字類抄。聖母因縁記。小  
香稚大明神。其御名大多良知比咩と申。其の兵範記。小  
香稚大多。羅志姬。宮などあり。記傳。其も。統紀。其の状。小  
てい。皇后。其の。詠れたり。臣廟。其。其喜式。小。檀日廟  
舍人一人。大臣。武内宿祢。資人一人。廿二社。注式。小。引る。太宰  
府例。小。大臣。殿。其の。同。宿祢。命。の。廟。の。聞。其。好古  
云。御社。今。ハ。中。小。皇后。左。小。八幡。大神。右。ハ。住。吉。神。同。殿。小  
仁德。天皇。を。併。祀。了。又。古。宮。大明。神。と。仲。哀。天皇。を。崇。祀。了。  
社。も。あり。古。き。末。社。記。小。武。内。宿。祢。社。の。れ。ど。今。ハ。無。し。祠。官  
ハ。古。より。四。党。と。侍。大。中。臣。大。膳。清。原。四。氏。あり。一。ハ。伴。氏  
々。今。ハ。絶。たり。可。惜。し。其。社。記。小。皇后。三。韓。と。歸。り  
給。ひ。異。国。へ。携。給。ひ。三。の。兵器。御。劍。御。鉾。鐵。の。杖。今。の。御  
社。の。前。小。埋。り。其。上。小。杉。の。枝。を。挿。せ。給。ひ。後。代。も。我。国  
家。の。守護。神。と。成。る。べし。と。誓。て。給。ひ。其。後。衆。え。其。綾。杉

と成り。後花園天皇。正和年中。御社。炎上。の時。小焼。其  
木の苗。灰。中。より。二本。生。出。ぬ。天正十四年の。兵乱。小。其  
の時。小。焼。し。程。を。其。根。より。生。つ。今。御。社。の。前  
小。あり。ち。を。云。ひ。宇。佐。託。宣。集。小。引。る。御。由。來。記。小。大。帶。姫  
并。御。子。八。幡。や。其。朝。小。昔。渡。給。ひ。淨。地。を。占。り。御。在。所。や。定  
給。ひ。時。大。帶。姫。ハ。香。稚。を。古。く。杉。と。逆。小。殖。り。重。や。為。給。ふ。  
須。賀。杉。是。ち。り。金。粟。集。小。隆。家。卿。太。宰。帥。小。二。度。任。り。後。の  
度。香。稚。御。社。小。参。り。たり。り。小。神。主。木。の。本。の。杉。葉。を。折。り。  
帥。の。冠。小。は。り。や。り。り。神。主。大。膳。武。忠。子。早。ふ。香。稚。ひ  
の。宮。の。杉。は。葉。を。二。度。う。り。我。君。を。き。み。新。古。今。集。小。詠。人  
る。ち。り。り。古。説。小。香。稚。や。い。仲。哀。天皇。の。御。指。を。推。木  
小。挂。奉。り。香。稚。の。故。小。名。つ。く。や。大。后。推。木。小。御  
手を。觸。給。ひ。香。有。し。故。も。字。小。付。了。の。杜。撰。や  
を。聞。え。又。建。久。元。年。粟。西。僧。が。宋。国。より。菩。提。樹。を。贈。り  
く。御。社。小。種。し。元。享。秋。書。小。見。ゆ。聖。武。天皇。紀。天。平。九。年。四  
月。の。下。小。遣。使。於。筑。紫。住。吉。八。幡。二。社。及。香。稚。廟。以。告。新。羅。元  
禮。之。状。大。炊。天皇。天。平。寶。字。三。年。八。月。六。日。紀。小。遣。太。宰  
帥。三。船。親。王。於。香。稚。廟。奏。代。新。羅。之。状。同。一。六。年。十。一。月。十。六  
日。條。小。遣。参。議。後。三。任。民。部。卿。藤。原。朝。臣。巨。勢。麻。呂。散。佐。外。後

五位下。土師宿祢犬養奉幣于香椎廟。以為征新羅調習軍旅也。この時の議。經國集にも見えたり。右等の皇典を始り。万葉少も神龜五年冬十一月。太宰官人等奉拜香椎廟なり。いひしる神名帳に載らぬ。付く記傳に論たり。ハ。凡く皇國小廟と云ふ。無を以てのみ殊に廟と云ふ。皇后の征給ひ。後三韓國ひたり。小服ひ参来。御代小彼。國上。皇太后の御靈を奉り。宮よりやあり。む。信友も。以て因く。本朝无題詩。叙蓮行。同宮の詩注。古岸有蘆草之藜。古若詔。云古人殖唐蘆之種。四時不枯也。あり。韓人の殖奉り。みやあり。と。共小理たり。語。たり。同集叙蓮禪。詩注。香椎宮。行際威權。日域抱関者。不能行留あり。當時。御社の御采えの程思ひやり。兼和十年十月十八日御記。御使を香椎廟に遣さる。幣帛を奉り。寶位動き。國家の泰平。を祈給ふ。やあり。此八月太宰府の上言。對馬嶋の防人らが去。正月中旬より。今月六日。新羅國の地方に當り。遣ふ。

鼓。邑有。日毎小三度響き。黄昏小火。の見ゆ。申せ。小因。の。開ゆ。此。後。新羅國の仇を奉ら。や。清和天皇實録。貞觀八年。太宰府の上言。肥前國基肄郡。山春永。新羅人。珍賓長。共。小新羅國へ渡り。兵弩器械を造る術を教。對馬島を撃。取ら。謀。同十一月。小。者。恠異。見。を著龜。小求。新羅賊。常小間隙を窺ふ云云。能登因幡伯耆出雲石見隱岐長門太宰等の國府。詔。幣を國々の諸神に奉り。冥助を祈給ふ。見え。同十一年六月太宰府奏言。去月廿二日夜。新羅の海賊。艦二艘。

ふ衆く博多津ふ来く。豊前國の年貢の絹綿を掠奪ふや白  
し十二年同府奏ゆ津島人ト部乙屎麻呂鷺鷥を捕むや  
く新羅地あたりに往く彼國人ふ捕らむ獄禁せられ  
く彼人やも大船を造り鼓角を習しをせし故に恠み  
く防檢人ふ其由を問ひ津島を伐取らむ為やを答へけ  
る。はく後禁を脱く逃歸すや。同十五日勅く大中臣  
國雄朝臣を遣はく。八幡大神宮香椎廟宗像大神甘南備  
神等小幣帛を奉り御祈禱ありその告文ふ。天皇の詔旨  
ふ坐せ挂卷も畏き香椎廟の廣前ふ申給へや申はく。去年  
六月以來太宰府より度々言上つる。新羅の賊船二艘筑

前國那珂郡の荒津ふ到來く。豊前國の調貢の船の絹綿  
を掠奪ひく逃退たり。又廳の樓兵庫等の上ふ大鳥の恠あ  
るふ因りて。ト求る。鄰國の兵革のと有るやト申せり。  
また肥後國ふ地震風水の災あり。舍宅悉ふ仆顛。人民  
多ふ流亡たり。如此災ハ古來未だ聞び。故老等も申はく  
申上たり。然る間ふ陸奥國もまた常ふ異なる地震の災を  
言上たり。自餘の國々も。また頗件の災ありや言上たり。傳  
聞く。彼新羅人の我日本の朝や久き世より相敵を來た  
る。而る今境内ふ入來く調物を奪取す。懼沮の氣も  
無く。其意況を量る。兵寇をむとゆる萌此より

く生をけり。我が朝久く軍旅をくく専ら警備を忘れたり。  
兵亂のころ尤慎く恐るる我日本の朝ハ謂ゆる神明の  
御國あり神明の助護り給ふ。何の兵寇も近づくる況  
くま。彼新羅人の相あがむ來るる夏ハ挂卷も畏  
き御廟の威徳も因り降伏へ訖給ひ。若干の代時を歴  
來たり。而る今かくの如くも押侮る氣色を露出し事ハ  
寂され御廟の聞驚き怒志を給ふる者あり故是を以て  
從五位下行主殿權助大中臣朝臣國雄を差使り。禮代  
の太幣帛を捧げ持せ。奉り出。此状を平らけ。聞食  
く。假ひ時世の禍乱や。上件の叛賊をよと在るる物

なをとも。挂卷も畏き御廟國內の諸神たちを唱導し給ひ  
く。未だ發向をたむる前も。沮拒き排却給へ。賊の謀已も  
熟く。兵船必び來るる在る。境界も入る給へ。遂  
も還り。漂没し給ひ。我朝の神國や畏憚られ來れり。  
故實を澆し失ひ給ふ。外の假令や。夷俘の逆謀  
叛乱も。中國の盜兵賊難ふ事。水旱風雨の。疫癘飢饉  
の。も至るも。國家の大き禍万姓も。深き憂ひや  
。在る。皆悉々も。未然ぬ外も。拂ひ却け銷滅  
し給ひ。天の下躁驚くも。なく。國內平安も。鎮護し救ひ  
助け給ひ。天皇朝庭を。常磐も。堅磐も。夜の守晝

の守ふ護り幸へ。稔み奉り給ふと。恐る恐る。申給ふや  
申はやあり。玆御詔文ハ深く感奉れ。故ゆれば全文のま  
ま引出つ。ありを見ても神明鏡ハ蒙古我朝へ  
寄るも開化より始る。仲哀ハ新羅高麗百濟也。仍神功皇  
后御對治とゆふを始る。余が上奏不説つるをも御社の  
皇后ハ座々ゆふをも悟る。その外ハ幡大神宮宗像大  
神たちハ奉らゆふのも大方同し。今ハ省き。同奉十  
一月。筑後國の史生佐伯真繼。太宰少貳藤原元利万侶の  
新羅と謀を通せしとゆふ。夏を告る。真繼を檢非違使ハ下  
さゆふ。かく後大神の甚き御稜威を震ひ給ふ。まや  
まひある。その陽成天皇實録元慶二年十二月十一日の條  
ハ太宰少貳從五位下嶋田忠臣朝臣等奏さく。檀日宮託宣  
あり。新羅の虜船我國ハ向ふにやゆ。あれが備を爲はる  
し。宣たりや申せさき。茲ハ因り。從五位上刑部大輔弘道

王を伊勢大神宮ハ奉り上り。冥助を祈請はらめ給ふ。同廿日  
民部大  
輔藤原房雄朝臣も。太宰權少貳兼左近衛少將  
と。太宰府ハ遣り。我夏を警む。同廿四日。兵  
部少輔從五位下兼行伊勢權介平季長朝臣も。太宰府ハ向  
ち。め。幣を檀日。八幡及姫神。住吉宗像の大神たちハ奉ら  
し。檀日。八幡姫神ハ。別ハ綾羅の御衣。各一襲。金銀装の寶  
劍。各一つを獻り給ふ。彼御託宣ハ。新羅の凶賊。我隙を窺  
ひ。宣給ひ。肥後國ハ大鳥集り。河水赤く。變り等の怪あり  
し。因り。上。秋年九月七日の下。肥後國。八代郡の倉  
の前。河氷赤く。血の如く。赤の辺の山。野の草木凋枯。く。と。嚴冬の如く。あり。同三年。三月十  
三日の下。丹後國言ハ。異國の船一艘。長六丈。廣一丈五



尺ありが。管せら竹野郡に漂著る。皆悉く破損。調度ありあや無しや見え。同十六日。豊前。国守佐宮なる。神功皇太后御前。執無故破裂成九十片や見え同四年六月十七日。但馬國の上言ふ。管せら。二方郡の百姓等。海中を遙小望む。形小鳥の如き物あり。長十丈。むら。前後小物あり。高さ五六尺許。見ゆ。疑く。船の櫃。舳を。む。其中央小。風ふ。つ。動く物あり。これ帆席を。むら。必間あり。東小行。見え。び。なり。ぬ。ま。西北方小海に。流る。物三あり。三日を。経。揺動。疑く。他國の船。な。む。又北方小。一。大船あり。海底小沈り。長一丈五尺許。あり。申。是。小。因。但馬。因。幡。伯。着。出雲。隱岐。等。の。國。小。

下知。不虞。小。備。給。同十九日。但馬國。白。美。舍郡。一。大船あり。海上。漂。流。長五丈餘。廣一丈六尺許。二。方。郡。を。百。姓。の。見。た。り。三。船。の。類。を。申。上。し。此。前。後。の。事。を。相。照。應。せ。考。み。皇。大。神。の。御。威。德。小。頼。己。小。冠。奉。ら。せ。賊。船。共。の。破。損。も。漂。失。も。得。せ。來。り。人。の。能。讀。味。ひ。辨。ふ。喜。六。年。七。月。十。三。日。の。隱。岐。國。の。上。言。小。未。申。方。上。猛。風。吹。り。時。天。健。金。草。命。託。宣。新。羅。賊。船。北。海。小。浮。居。り。我。彼。と。追。ひ。退。く。大。風。吹。つ。る。由。宣。給。帆。柱。木。の。如。き。物。流。着。た。り。是。新。羅。の。賊。船。の。帆。柱。等。を。と。奏。せ。り。神。名。式。を。全。國。隱。知。郡。天。健。金。草。神。社。と。し。神。の。御。所。考。り。元。慶。度。の。神。異。と。い。や。能。似。た。り。管。崎。大。神。宮。と。い。は。る。御。威。德。の。よ。き。

あはれど、この別小紀奉らむと云。右の事小就く、又案少小類  
聚国史の、延暦十八年五月十二日丙辰の條、前遣瀛海候  
外後五位下内藏、宿祢賀茂麻呂等言、以、御小帰、以、日海中  
夜暗く東西、擊、曳、く著、所を識らば、時、小火、光、遠く見ゆ  
これ、を、尋、も、く、忽、嶋、濱、小、到、り、ゆ、く、訪、ふ、小、隱、岐、国、智、夫、郡  
小、く、其、所、小、入、居、有、る、と、無、く、或、人、云、比、奈、麻、治、比、賣、神、常  
に、靈、驗、ま、し、く、商、賈、の、輩、海、中、小、漂、宕、へ、ハ、必、火、光、を、揚、給、ふ  
ま、し、く、夫、小、頼、ま、く、全、き、ま、し、く、と、得、る、者、勝、く、數、ま、し、く、神、の  
祐、助、良、ま、嘉、報、ま、し、く、伏、く、望、く、ハ、幣、奉、る、例、小、預、奉、ら、む、と  
請、申、入、許、給、ふ、と、あり、比、奈、麻、治、比、賣、神、も、式、内、小、く、同、国、知  
夫、郡、小、坐、り、今、小、燒、火、權、理、と、く、靈、感、ま、し、く、由、諸、国、里、人、談、術  
の、立、石、を、物、小、録、せ、る、を、業、人、も、若、ハ、天、使、金、草、神、と  
同、御、族、の、神、等、小、ハ、あ、り、ゆ、り、か、ゆ、く、土、佐、日、記、小、ま、し、く、  
の、ち、ゆ、り、の、神、小、手、向、ま、り、ぬ、さ、の、追、風、ま、し、く、吹、ま、し、と、詠  
み、ま、し、く、此、神、の、御、事、ま、し、く、あ、り、ま、し、く、又、近、世、彼、廟、小、種、ま、し、く、  
々、威、靈、の、あ、ま、し、く、ま、し、く、ハ、幡、本、紀、小、就、く、見、る、ま、し、く、  
豊前、國、宇、佐、郡、宇、佐、大、宮、也、大、帶、姫、廟、神、社、也、神、名、帳、小、あ  
る、ハ、香、椎、廟、も、皇、遷、奉、ら、む、を、る、ま、し、く、と、記、傳、通、証、小、説、ら、む

如く、玖、御、社、の、ハ、尚、別又山城國紀伊郡御香宮も縁起小  
中間小神功皇后左小仲哀天皇右小應神天皇も齋奉<sup>イニキマツ</sup>東  
間小宇倍大明神瀧祭神河上大明神西間小若宮と仁徳  
天皇菟道稚郎子高良大明神白菊明神社記云、ま、し、く、神、仙  
を、愛、り、年、久、く、住、居、し、ぬ、白、菊、を、多、く、種、く、愛、せ、し、  
ゆ、名、小、白、菊、老、翁、と、稱、し、し、く、神、と、成、ら、れ、し、と、相、殿、小  
祭、即、式、内、也、御、諸、神、社、の、事、と、い、ふ、り、後、風、土、記、小、も、御  
香、宮、ハ、皇、后、を、祭  
奉らむと云、記、せ、り、山城、名、勝、志、小、曰、御、香、宮、在、大、龜、谷、東、矢、島  
嶺、云、云、矢、島、嶺、社、地、今、爲、御、族、所、豐、臣、秀、吉、公、朝、鮮、征、伐、之、時、  
自、當、社、有、御、首、途、山、城、志、小、天、正、中、遷、大、龜、谷、八、科、嶺、以、爲、城、  
壘、神、慶、長、八、年、復、鎮、故、地、以、八、科、嶺、古、御、香、爲、神、幸、之、地、見  
西方、寺、古、園、と、い、ひ、好、古、も、豐、公、の、伏、見、城、を、築、れ、し、時、御、香  
宮、を、今、矢、島、嶺、小、移、さ、れ、其、跡、を、秀、秋、卿、の、第、と、爲、ら、れ、し、  
狀、ハ、惟、異、有、り、ハ、止、し、し、得、以、本、地、小、移、奉、ら、む、と、い、ふ、  
立、し、上、奉、ら、む、豐、公、御、願、文、の、ま、し、く、右、名、勝、志、の、説、小